

地震に負けない！カンショ栽培の復活に向け始動

阿蘇地域の西原村ではカンショの栽培が盛んです。平成 27 年産は 60 名の生産者が 80ha で作付けを行い、1,000t 以上の出荷がありました。品種は主にシルクスイートを用い、「絹おとめ」のブランド名で売り出しています。販売単価も高値で推移し、生産者の間にはやる気が出てきていました。その様な中、4 月 14 日、16 日の熊本地震が襲いました。カンショ貯蔵庫のほとんどが損壊し、ひどいところでは天井が落盤して貯蔵中のカンショが埋まってしまいました。大きな地割れや隆起、陥没が発生している圃場もあり、定植準備を済ませていたにも関わらず、作付けを見送らざるを得ないケースもありました。生産者の中には自宅が被災し、避難所暮らしを余儀なくされた方もたくさんいます。しかし、このような状況下でも生産者は畑へ通い、できることから一つずつ作業を始めていきました。時にはボランティアの方の助けを借り、スケジュールに遅れを生じながらも、定植を計画していた面積の大半を終えることができました。

阿蘇支部では地震からの復興へ向けた取り組みを様々な角度から支援していきます。



地震によって破壊された圃場



倒壊した貯蔵庫